

個人質問

高齢者から子どもたちまで  
生きがいあるまちをめざして

誠和会

林

修三



活力あふれる高齢者の生活づくりについて

子どもたちの安心な生活づくりについて

教職員の安心な環境づくりについて

問 八街市における行方不明者の実態と高齢者への基本的な方向性について伺う。

市長

八街市の百歳以上の方は15人いらっしゃいますが、所在が明らかとなつていません。

次に高齢者の活動の場として老人福祉センターや老人憩いの家を開放しております。高齢者を対象に高齢者学級や生きがい短期大学、シルバー人材センターの支援も行っています。また、外出支援としてふれあいバスの運行、福祉カーの貸し付けなどを行っております。

問 虐待についての八街市児童・生徒の現状と防止策や民生委員等との連携活動について伺う。

市長

児童虐待については、現在家庭児童相談室において、様々な虐待の相談や通告を受けるとともに、児童相談所等の関係機関と連携を図りながら対応しているところです。過去3年間、家庭児童相談室において受理した通告・相談件数は、平成19年度40件、平成20年度48件、本年7月末現在14件の虐待相談がありました。また、民生委員さん等との連携ですが、まずは児童家庭課で集約し、必要に応じて関係機関や民生委員さんに支援して頂いています。今後も地域での見守りをお願いし虐待防止に向けた努力をしてまいりたいと考えています。

問 教職員の健康に留意した勤務に対する基本的な考えについて伺う。

教育長

適正な校務分掌の整備や「ノー残業デー」の実施等、職員の勤務状況を日常的に把握し、改善に努めるよう指導、助言をしております。

問 「ノー残業デー」について強く望むが如何か。

教育次長

相談への対応や事務処理の増加等で定時に帰れない状況もありますが、勤務時間の適正管理の観点からもノー残業デーの更なる徹底を指導してまいります。

※その他の質問

◆第二次基本計画について

◆地産地消を利用した八街のPR活動策について

◆保育園児の待機解消

◆農業後継者の育成と結婚活動支援について

個人質問

国保の広域化で市の国保運営が  
正常化するのか

日本共産党

右山 正美



問 国保の広域化について伺う。

高すぎる国保税、非情な滞納制裁、増え続ける無保険者、貧困と格差がますます広がる中、市町村国保の危機的状況が深刻化している。

民主党政権は先の通常国会で「国保の広域化」を推進する法案を通し、後期高齢者医療制度の見直しとも連動させて「医療保険の都道府県単位化」を進めようとしている。国の予算削減が生み出した財政難を「国保同士の助け合い」に押し付け「国保の広域化」を推進するといふものである。

問 一般会計からの繰り入れで、引き下げを強く求めるが如何か。

市長

一般会計からの繰り入れは行わず、手法を考えていく所存でございます。

問 今年インフルエ

ンザが猛威をふるうのではないかと報道もされてお

り、予防を呼びかけるとともに、市が市民の健康を守るという積極的な施策が強く求められている。予防医療について、インフルエンザ・三種・ヒブ・肺炎球菌・子宮頸がんワクチンの早期助成を求めるが如何か。

市長 国の支援策以外に、市の支援策は考えておりません。

問 地デジ対応について

市長

来年の7月24日から地上デジタル放送が始まるが、経済的理由でテレビやチューナーさえ買えない高齢者・低所得者世帯がある。

また、テレビの処分は4千100円かかり、家計の負担となる。

市長

助成を求めるが如何か。

外に、市の支援策は考えておりません。

